

2022年11月期
第1四半期
決算補足説明資料

ティアンドエス株式会社
(東証グロース 4055)
2022.4.14



T & S
Technology & Service

2022年11月期 第1四半期

ハイライト	p. 3
決算概要	p. 4
営業利益の状況	p. 6
カテゴリー別売上高	p. 7
取引先別売上高	p. 8
四半期別売上高	p. 9
主要取引先動向	p. 10
エンジニアの増員状況	p. 11
損益計算書	p. 12
貸借対照表	p. 13
業績予想進捗率	p. 14
資本業務提携	p. 16
株主還元	p. 18

(今期のテーマ)

成長の加速

1 過去最高収益を達成 (過去同四半期比)

売上高	: 7億33百万円	(25.0%増↑、増加額: 1億46百万円)	(前年同四半期比)
営業利益	: 1億26百万円	(77.0%増↑、増加額: 55百万円)	(同)
経常利益	: 1億26百万円	(76.3%増↑、増加額: 54百万円)	(同)
四半期純利益	: 88百万円	(74.4%増↑、増加額: 37百万円)	(同)

2 先進技術ソリューションが大幅躍進。その他のカテゴリーも順調推移

- 先進技術ソリューションカテゴリーの売上高が前年同四半期比**174.3%増**と大幅躍進。既存取引先からの開発支援案件の受注が安定しているほか、新規取引先増加などにより売上高が拡大。
- ソリューションカテゴリーの売上高は前年同四半期比**18.4%増**。前期後半から始まった大型開発案件が続いていることから増収。
- 半導体カテゴリーの売上高は前年同四半期比**23.9%増**。半導体工場への派遣技術者数の増加に伴い増収。

3 1Q売上高の進捗率が例年を上回り、業績連動賞与も引当計上

- 例年1Qは売上高があまり伸びないという季節変動トレンドがあり、前1Qも構成比21.5%にとどまっていたが、当期は通期予想に対して**23.6%の進捗**となった。
- 前期に引き続き、営業利益の一部を従業員に還元。1Q分の業績連動賞与15百万円を引当計上するも、営業利益率**17.3%**を達成。(前年同四半期比5.1ポイント増)

決算概要

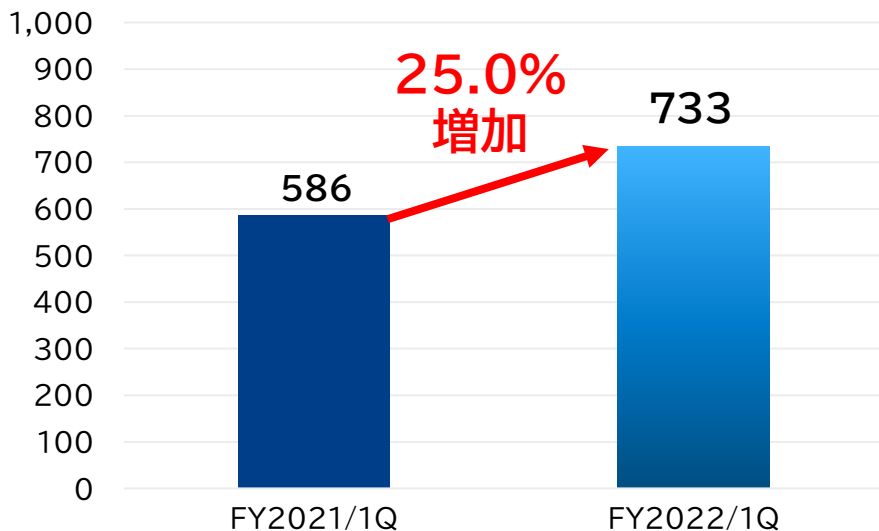
2022年11月期 第1四半期

過去最高収益を達成 (過去同四半期比)

売上高	: 7億33百万円	(25.0%増↑ 増加額: 1億46百万円)	(前年同四半期比)
営業利益	: 1億26百万円	(77.0%増↑ 増加額: 55百万円)	(同)
経常利益	: 1億26百万円	(76.3%増↑ 増加額: 54百万円)	(同)
四半期純利益	: 88百万円	(74.4%増↑ 増加額: 37百万円)	(同)

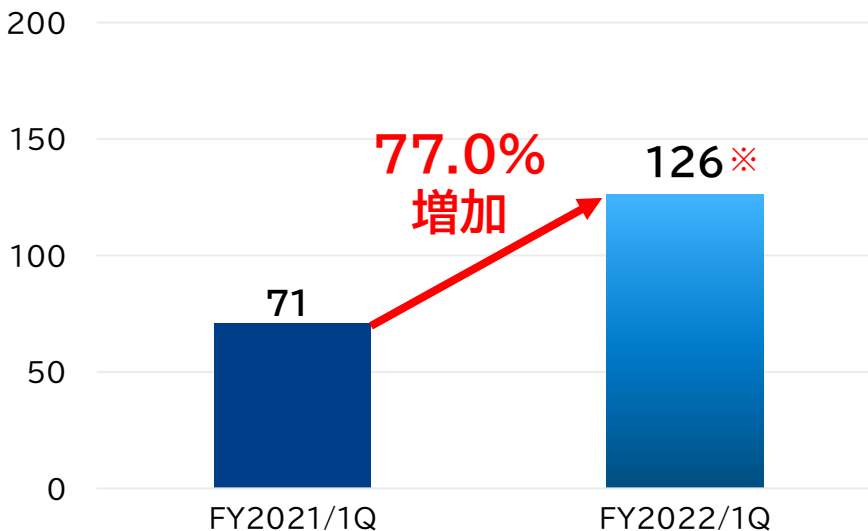
(単位:百万円)

売上高



(単位:百万円)

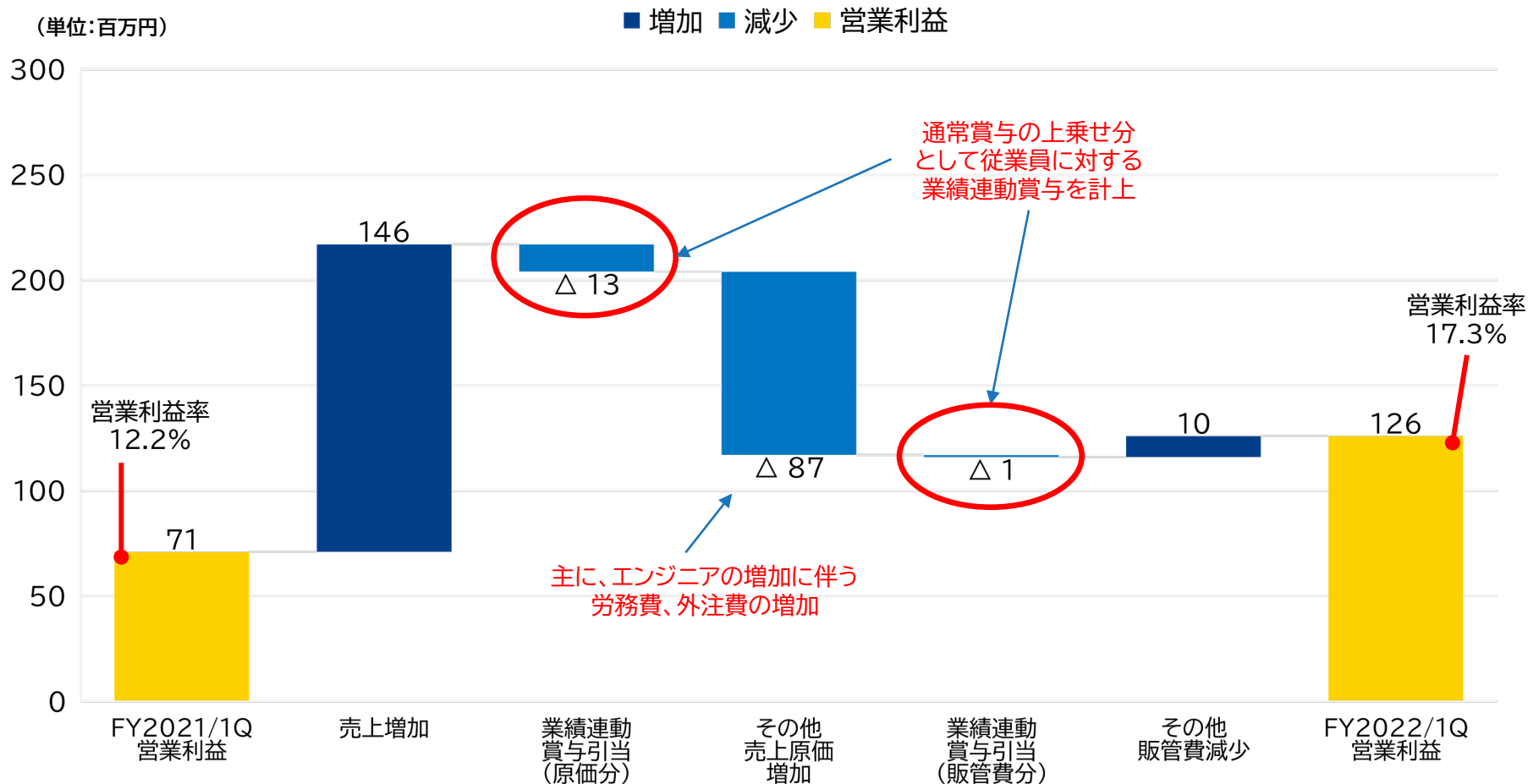
営業利益



※好業績に鑑み、従業員向けの業績連動賞与を15百万円計上しています。

業績連動賞与を吸収し、55百万円の営業利益増

(前年同四半期比)

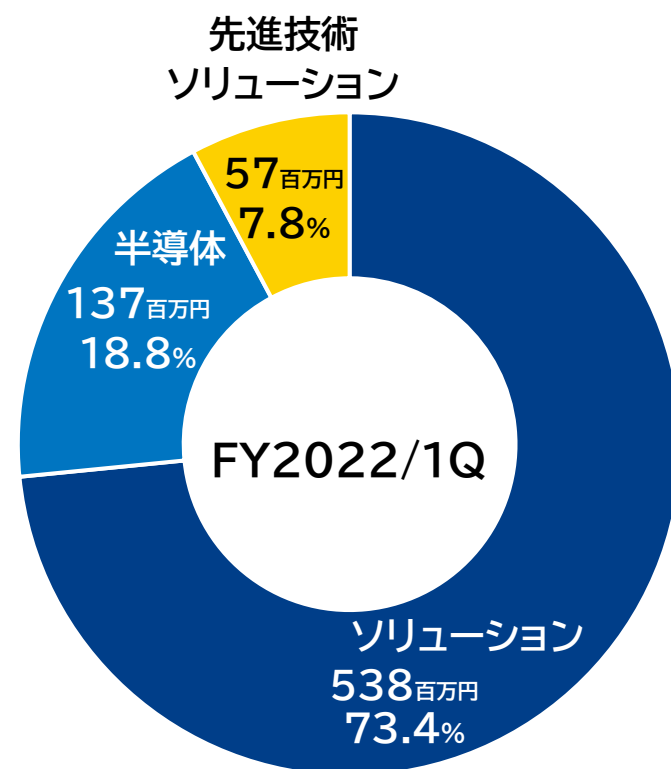
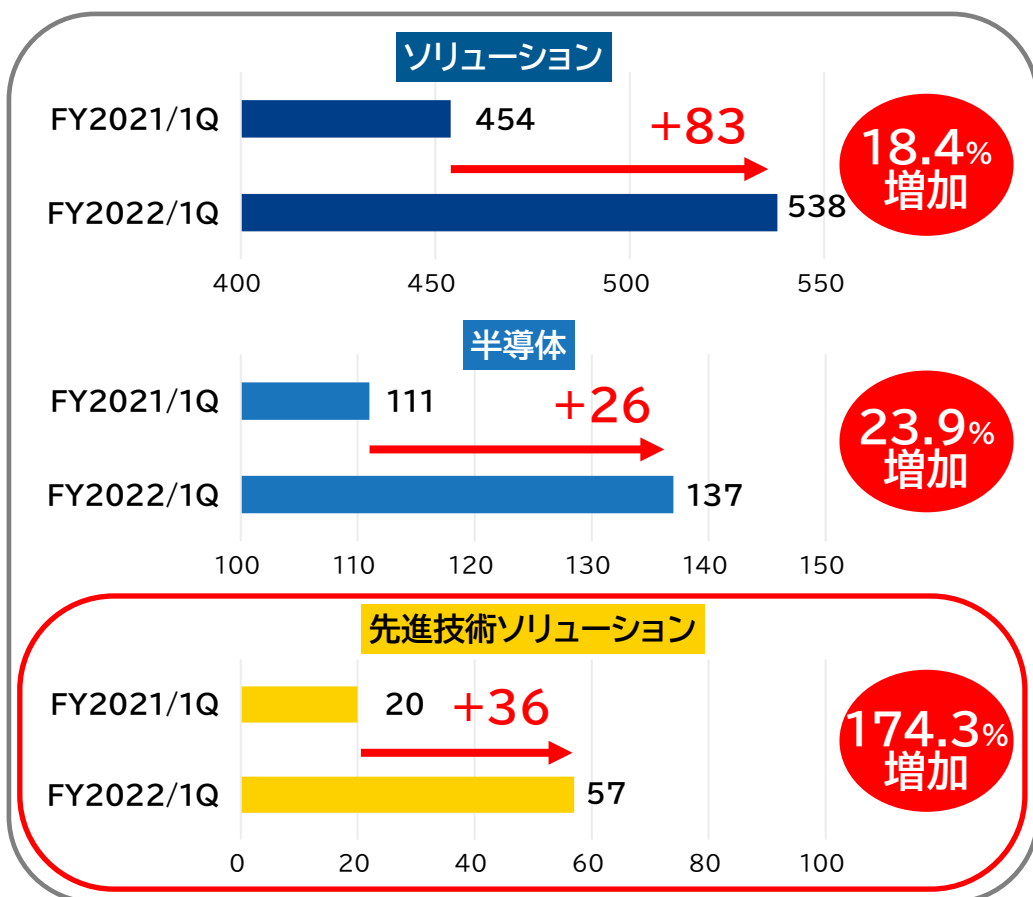


カテゴリー別売上高(FY2022/1Q)

全てのカテゴリーにおいて増収
先進技術ソリューションは**174.3%増加**
(前年同四半期比)

売上高(カテゴリー別) (単位:百万円)

売上比率(カテゴリー別)



(注) 当社の事業セグメントは単一セグメントです。売上高のみカテゴリー別に集計しております。

取引先別売上高(FY2022/1Q)

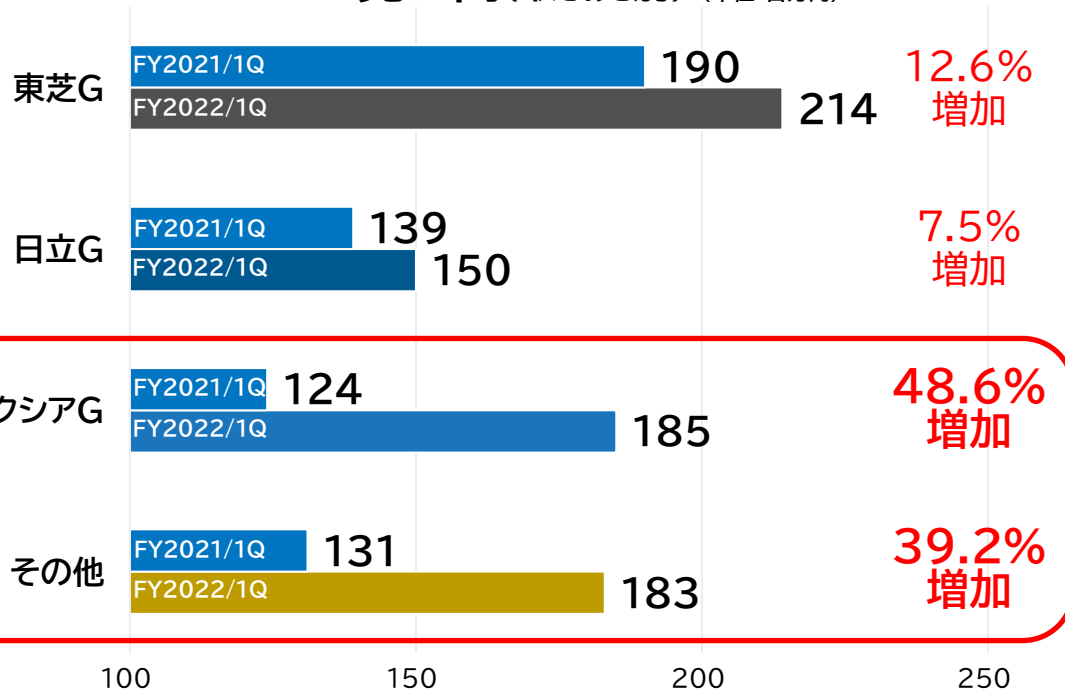
東芝G、日立G、キオクシアG

主要取引先は安定して推移
キオクシアGの増加が著しい
 (48.6%増加(前年同四半期比) 構成比25.3%)

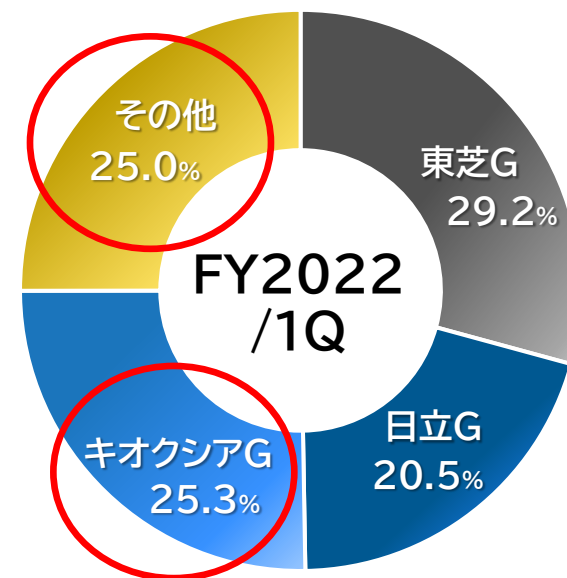
その他

新規取引先が増加
 (39.2%増加(前年同四半期比) 構成比25.0%)

売上高(取引先別) (単位:百万円)



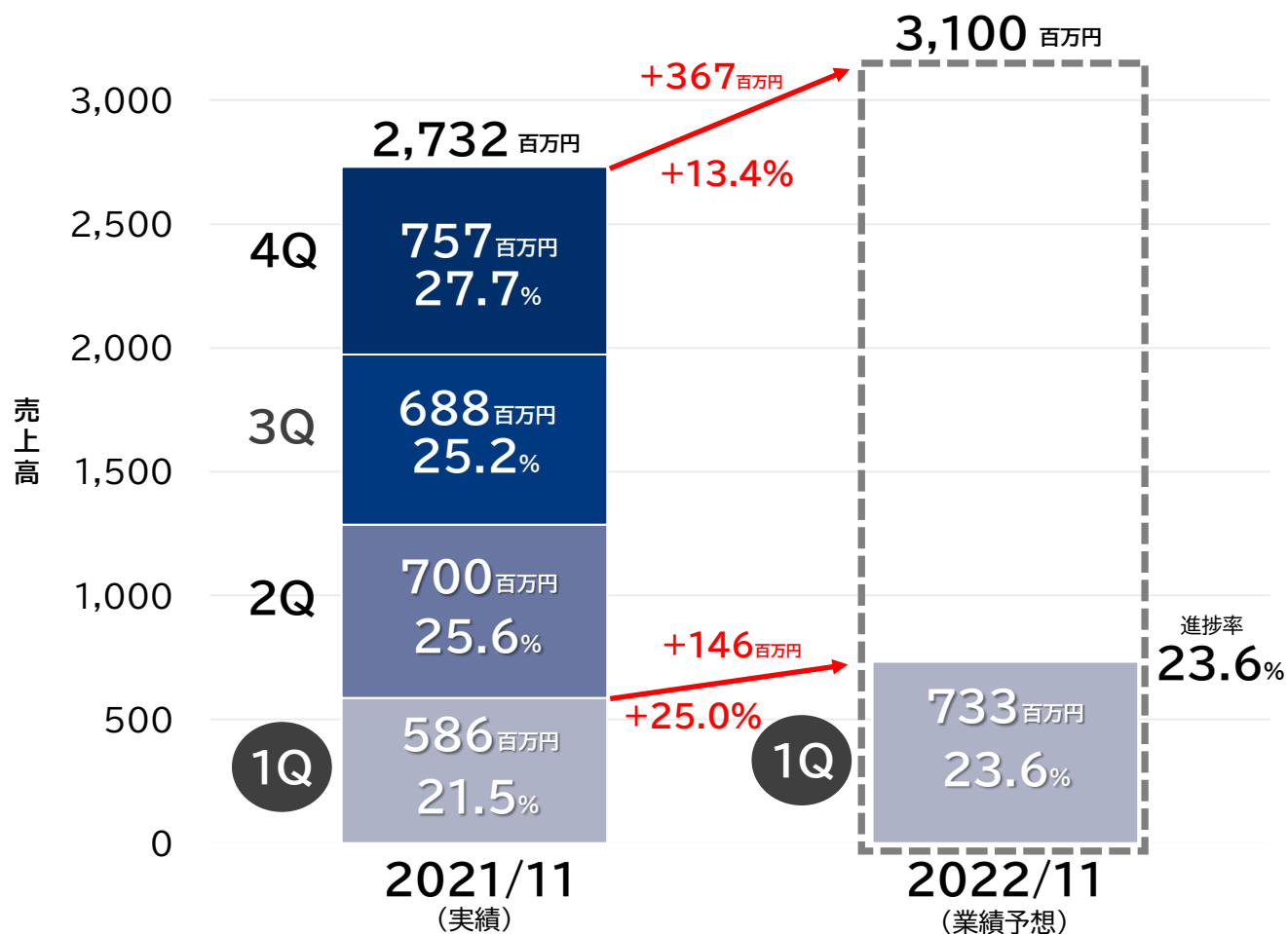
売上比率(取引先別)



1Q累計売上高: 7億33百万円

増加額: +146百万円 25.0%増加 進捗率: 23.6%
(前年同四半期比) (対通期業績予想進捗率)

(単位:百万円) 3,500



※当社の業績には、エンジニアの増員状況や案件の納期の関係で若干の季節変動が見られます。

(全体)主要取引先動向

(2022年4月14日現在)

当社の受注は引き続き好調であり、主要取引先全体としても好調。各社、新型コロナウイルスの影響は克服しつつある一方、地政学的リスクへの対応が課題となっています。

東芝G

パワー半導体やデータセンター向けのHDDが好調、受注高も前年比大幅増加。当社がシステム開発を手掛ける発電所関連のエネルギーシステムソリューションセグメントも好調。インフラ系とデバイス系を軸とした中長期計画は当社にとって好都合とみています。

日立G

市況の回復と、パワーグリッド事業やオートモーティブ関連事業の再編により最高益更新。特に、ITとエネルギーセグメントが急拡大しており、当社業務に関連する設備投資もコロナ禍における抑制傾向から一転、増加が期待されます。

キオクシアG

年初に国内工場における3次元フラッシュメモリの生産が一部停止していたものの、現在は復旧。当社への影響は発生せず。旺盛な半導体需要のもと、データセンタSSD、エンタープライズSSD向け出荷は好調。四日市工場の新製造棟建設に加え、北上工場の新製造棟着工も発表されるなど、当社にとっての受注拡大が期待されます。

その他

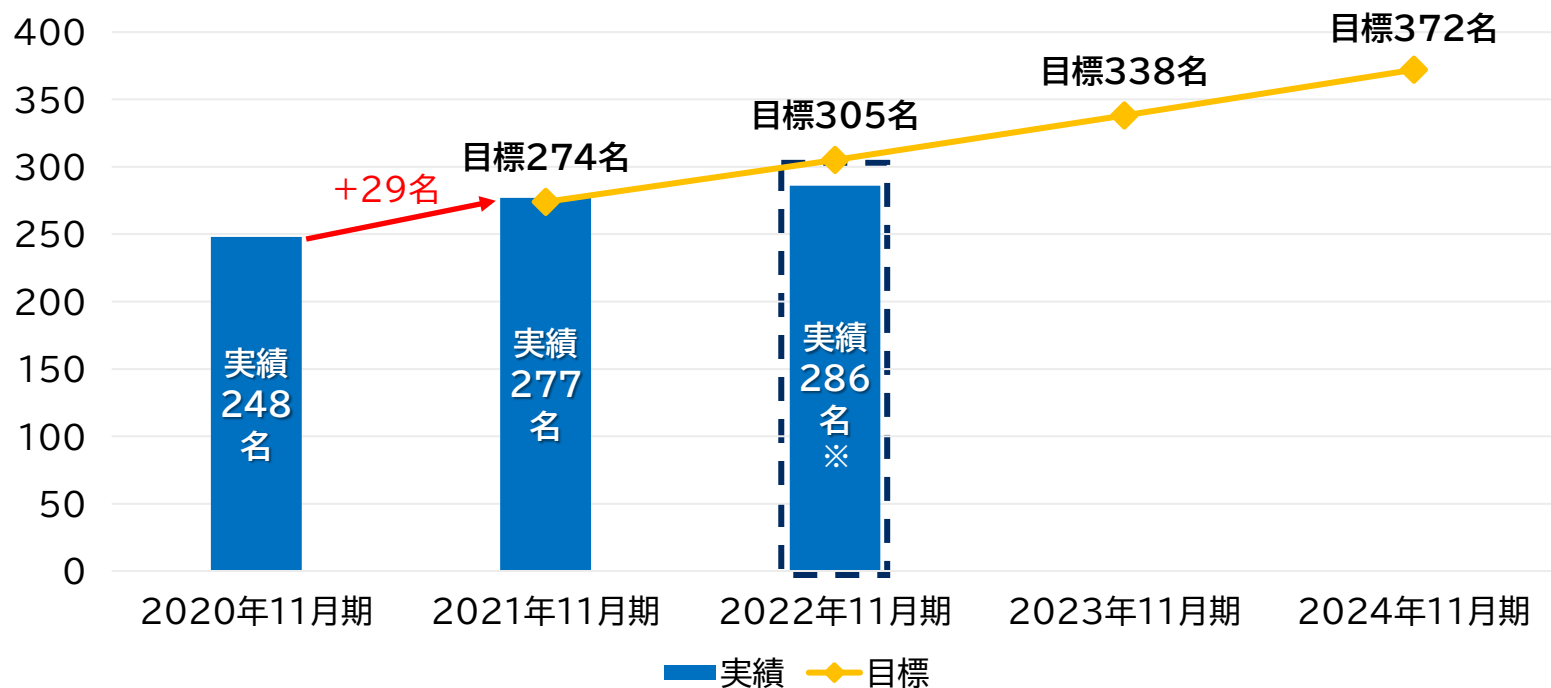
AIアルゴリズム開発の研究開発の分野において、自動車関連メーカ、精密機械メーカ、通信インフラ企業などの研究投資意欲が旺盛。コロナ禍の中でDX化、省人化の流れが加速しており、当社への引き合いが拡大しています。

(各社の公表資料、及び新聞報道より作成)

増員率 **103%**※

増員方針 全エンジニア数の約10%

(単位:全エンジニア数)



※2022年4月14日時点

損益計算書(FY2022/1Q)

損益計算書(FY2022/1Q)

単位:千円	FY2021/1Q	FY2022/1Q	増減額	増減率
売上高	586,564	733,145	146,581	25.0%
売上原価	413,845	514,309	100,464※	24.3%
売上総利益	172,718	218,835	46,116	26.7%
販売費及び一般管理費	101,210	92,232	△8,977※	△8.9%
営業利益	71,508	126,602	55,093	77.0%
(営業利益率)	(12.2%)	(17.3%)		
経常利益	71,781	126,552	54,771	76.3%
(経常利益率)	(12.2%)	(17.3%)		
四半期純利益	50,896	88,767	37,871	74.4%
(四半期純利益率)	(8.7%)	(12.1%)		

※好業績による従業員への業績連動賞与15,000千円を含んでおります。

貸借対照表(FY2022/1Q)

単位:千円	2021/11末	FY2022/1Q末	増減
流動資産	1,869,946	1,735,761	△134,184
固定資産	117,500	91,077	△26,422
資産合計	1,987,447	1,826,839	△160,607
流動負債	440,851	271,952	△168,898
固定負債	51,513	52,401	888
負債合計	492,364	324,354	△168,010
株主資本合計	1,495,082	1,502,485	7,402
純資産合計	1,495,082	1,502,485	7,402
負債純資産合計	1,987,447	1,826,839	△160,607

業績予想進捗率

2022年11月期 通期

通期予想に対し順調に推移

(通期業績予想の変更なし)

単位:百万円	2021年11月期 (実績)	2022年11月期 (予想)	2022年11月期 第1四半期(実績)	進捗率
売上高	2,732	3,100	733	23.6%
営業利益	412	550	126	23.0%
経常利益	419	557	126	22.7%
当期(四半期)純利益	294	391	88	22.7%

全社

前年同四半期比25.0%増。すべてのカテゴリーにおいて好調に推移。東芝G、日立G、キオクシアGといった主力顧客からの開発案件が堅調。顧客の納期や、技術者派遣の稼働日数の関係から、例年1Qは売上高があまり伸びないという季節変動トレンドがあり、前期1Qも構成比21.5%にとどまっていたが、今期1Qは通期予想に対して23.6%の進捗となった。

技術者リソースを補うため、外注の利用を増加させているが、好採算案件へのシフトも奏功し、粗利率は29.8%を確保。業績連動賞与の引当15百万円を吸収し、営業利益は126百万円と前年同期比77.0%増。営業利益率は17.3%。

ソリューション

前年同期比18.4%増。順調なエンジニア獲得と、前期後半から始まった大型開発案件が続いており増収。

半導体

前年同期比23.9%増。半導体工場への技術者派遣者数が前年同期比で20.9%増となり、これに伴い増収。半導体工場からの経常的な増員要請のほか、契約条件の見直しも随時行っており、増収増益に寄与している。

先進技術 ソリューション

前年同期比174.3%増と大幅躍進。前期に引き続き、NECからの受注が堅調に推移。既存取引先からの開発支援案件も安定しているほか、新規の取引先も増え、全社に占める同カテゴリーの売上構成比は前年同期3.6%から、当期7.8%に拡大。

資本業務提携

Intelligence Design(株)とのエッジAIに関する資本業務提携

株式取得の概要

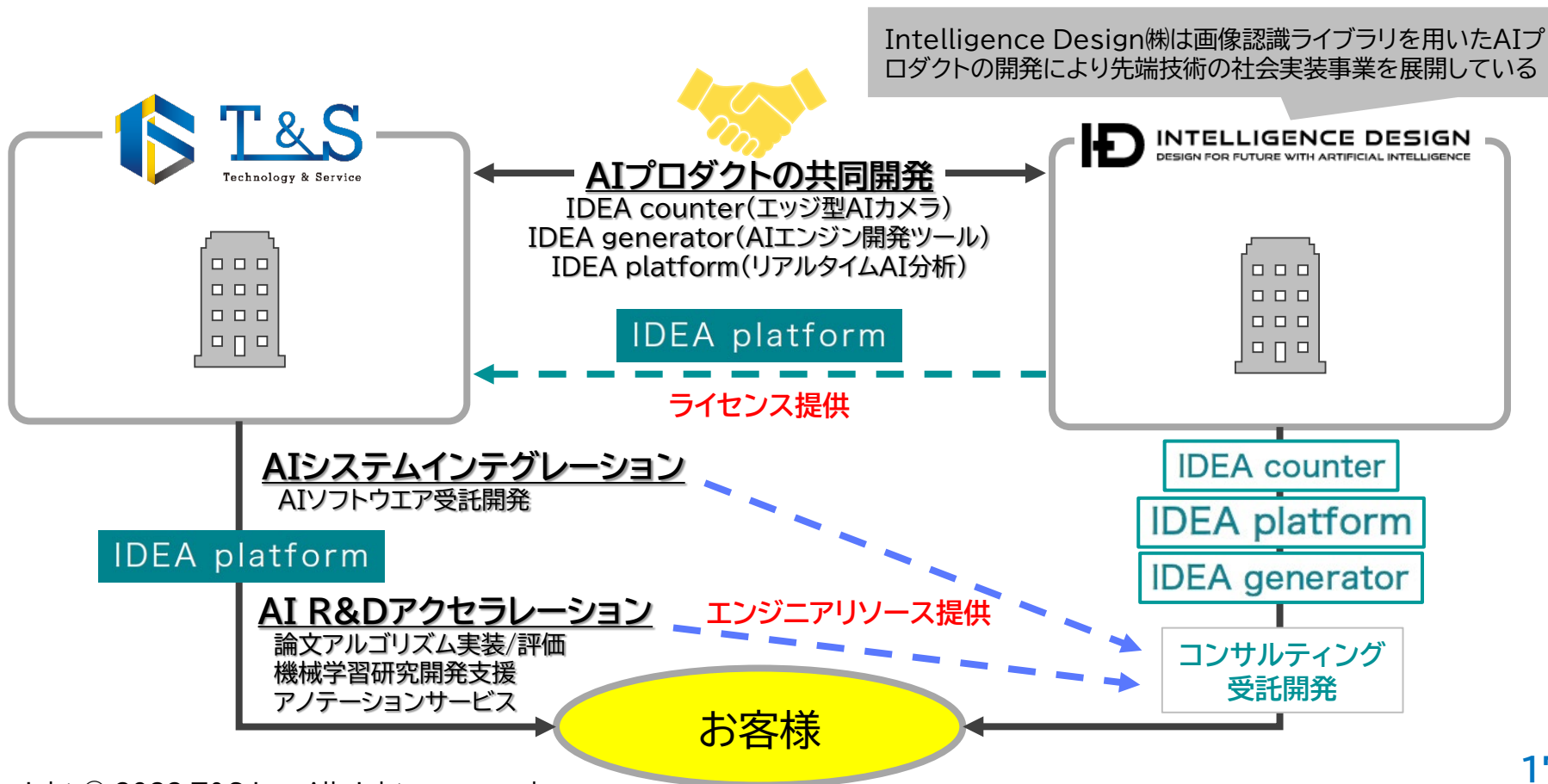
- Intelligence Design(株)の第三者割当増資を引き受け、同社株式の取得を合意
- 株式取得総額 : 50,400,000円
 - 本株式取得の株式数/議決権比率 : 普通株式63株/2.53%

資本業務提携の概要

- 当社とIntelligence Design(株)との間で業務提携契約を締結。主な施策は以下のとおり
- AI製品の共同開発
 - Intelligence Design(株)が有するAI分析プラットフォームの当社への提供
 - エンジニアリソースの相互供与

今後の見通し

本件は、中長期的な観点から当社の業績及び企業価値向上に資するものと考えており、当期の業績に与える影響は軽微



株主還元

2022年11月期の総還元性向は最大70.5%を予想しています

配当の基本方針

当社は、将来の成長が見込まれる分野における新しい技術取得への投資を通じて企業価値を向上させることを経営の重要課題と位置付け、これを実現することが株主に対する利益還元であると考えております。利益配分につきましては、企業価値向上を実現するために必要な内部留保の確保を優先しつつ、業績を考慮した適切な配当について継続して実施していくことを基本方針としております。

2022年11月期の配当につきましては、上記方針に沿って配当性向 10%程度の水準を目途に実施することとして、1株当たり5円00銭(実質1円増配)を予定しております。

これに加え、2022年1月から、自己株式の取得を行っております。(最大2億5千万円)

以上の施策を加味した財務指標は以下のとおりです。

	1株あたり配当金	総還元性向(※)	自己資本利益率 (ROE)
2022年11月期(予想)	5円00銭	70.5%	25.1%

※ 自己株式を取得枠上限まで取得したと仮定した場合の値です。

2022年3月末時点の自己株式の取得状況は以下のとおりです。

取得した株式の総数	株式の取得価格の総額	取得期間(約定ベース)
58,200株	76,154,900円	2022年1月14日~2022年3月31日

お問い合わせ先

ティアンドエス株式会社

経営管理部

Email / pr@tecsvc.co.jp

URL / <https://www.tecsvc.co.jp/>

本資料に掲載されている情報には、将来の見通しに関するものが含まれています。これらの情報については、現時点で当社が入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現や将来の業績を保証するものではありません。経済状況の変化や一般的な業界ならびに顧客ニーズの変化、法規制の変更等、様々な要因によって当該予想と大きく異なる可能性があります。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新又は改訂を行う義務を負うものではありません。